2000年ごろのパソコンの仕様を調べてみると、パソコンの進歩の速さに驚かされる。処理速度の目安になるCPU《パソコンの頭脳部分》のクロック周波数も、数百MHz〈メガヘルツ〉のものがほとんどで、1GHz〈ギガヘルツ・1 GHzは1000 MHz〉を超えた製品は、出はじめたばかりだった。このころのパソコンよりも今のスマートホンの方が高い処理能力を持っているというから驚くが、当時は不自由を感じることもなく、むしろ、処理能力の高さに驚いたものだった。では使うソフトはどうかというと、ワープロ、表計算と、ビジネスで使うソフトは、今とほとんどかわらない。しかし、現在ではそれぞれのソフトの機能が増えてきている。ソフトの機能のためにパソコンが進化するのか、パソコンの進化に合わせてソフトの機能が増えるのか、どちらが先かは難しい話だ。昔のソフトを今のパソコンで使用すればサクサク作動することも確かだが、一旦、新しいソフトの便利さを知ると、昔のソフトに戻る気がなくなる。まだまだパソコンの性能は進化し続けることだろう。